9月の定例教育委員会のお知らせ

◆日時／9月21日㈬　15時から　◆場所／第2委員会室（自由に傍聴できます）
◆問い合わせ／教育振興課 総務係　☎75−8022

教育委員会だより

「多久から発信！SDGs⑩」

「ふるさとへの想いを未来につなぐ」

先日、とあるテレビ番組で「高取伊好」の名前が登場し、炭鉱の町として栄えていた多久の様子や西渓公園が紹介されていました。高取伊好氏は多久町西の原で生まれ、明治時代に活躍した佐賀藩出身の実業家であり、多久が誇る先人のひとりでもあります。東原庠舎で学んだ伊好は、ふるさと多久を想い続け、人々が幸せになることを願っていました。

さて、伊好が活躍していた時代以降、日本のエネルギー産業の中心は「石炭」「石油」「天然ガス」といった地下資源でした。その状況は近年も続いていますが、このところ注目されているのが「再生可能エネルギー」です。「風力」「水力」「太陽光」といった自然に優しいエネルギーを活用することで持続可能な社会の実現を目指す取り組みは、盛んに行われています。電気や水素で走る自動車、太陽光発電を利用した家庭生活など。今の子どもたちが大人になる頃、社会はどのように変化しているのでしょうか。

冒頭に紹介した伊好は、70歳で会社を引退したのち、ふるさとのため、長きにわたり寄附を続けました。伊好の雅号「西渓」をとり名付けられた公園、そして学校は、ふるさとと人々の幸せを願う伊好の想いを、これからも大切に繋いでいくことだと思います。

7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに

連載

野の仏ギャラリー㊵

文殊菩薩坐像

多久町聖光寺

丸彫りの坐像で、方柱状の台座があります。宝冠上には、光背付きの化仏が蓮華台に坐っています。頭髪は双髻に結い上げ、額に白毫があります。右手に剣、左手に未開の蓮華を持ち、両腕に天衣が垂れています。文殊は古代インドの言葉を漢字で音写したものです。文殊菩薩は優れた知恵があり、左手に青蓮華（経巻の場合も多い）を持つとされます。

銘「明治卅年 文殊 牟田次郎 建之」

○菩薩は、本来悟りを開く前の修行中の者を称します。
○丸彫りは、一石から像を彫り出すことです。
○双髻は、髪（頭上に束ねた髪）が左右二つある状態です。
○白毫は白い毛で、光明を放ちます。
○剣は知恵を象徴するとされます。
○天衣はショール状の衣です。

多久市郷土資料館長　藤井伸幸

市民文芸

短歌《麦の芽短歌会 互選》

◆西の宮 大明神の 座し給う
南を曲りて 吟詠に行く
浦野 嘉恵

◆花嫁の 孫の姿を みるまでは
元気でいたいと 思う近頃
梶原恵美子

◆悲しみを 終わりにしよう 別れさえ
出合いの始まり 前を向こうよ
野崎 隆幸

◆友二人 退院の準備 なす夕べ
日没の空の 変りゆく見ゆ
尾形 節子

◆老いたれば ひと日ひと日を 重んじて
孫子と今日は 汗し草引く
川浪 信子

俳句《大石ひろ女選》

◆ひとり居の 翁と犬の 夕端居
本村 則子

◆水中花 瞼重たき 昼下がり
おおやはな

◆電線に 並ぶ子燕 ドレミファソ
武富 律子

◆夏草や 鎌研ぐ夫の 心意気
中嶋 清子

◆夏霧の 晴れて裾野の 草千里
富樫 明美

川柳《多久川柳会 互選》

◆客来ない 盆正月が 遠くなる
古賀 弘子

◆百代の 過客目指して ウォーキング
中尾 和弘

◆終点まで 客はオレだけ 過疎のバス
田代まつこ

◆頭打つ 閉じた扉で どうしたの
田代えみこ

◆若嫁の 淹れた新茶の いい香り
松下 修